いちょう No.8

栃木市立藤岡小学校だより
平成26年　12　月９日

放射線量　12/3
0.076 μ ms

学校支援ボランティさん感謝の会に思う…　「コミュニケーション」

１２月４日（木）に体育館で日頃からお世話になっている学校支援ボランティさん感謝の会を児童会の企画委員会が中心になって全校児童で行いました。ご招待した方は、とちぎ未来アシストネットボランティアさん、交通指導員さん、学校安全ボランティアさん、読み聞かせボランティアさんの皆さんで、４０名ほどご参加いただきました。児童代表の感謝の言葉の後に、子ども達全員で書いた感謝メッセージをお渡ししたり、各学年の発表を見ていただいたりしました。合奏や合唱、群読やダンスなどを子ども達は一生懸命に発表し感謝の気持ちを伝えました。参加されたボランティアの皆さんから大きな拍手を頂きうれしそうでした。各ボランティアさんの代表の方からも挨拶を頂き、和気藹々とした和やかな雰囲気のなか終了しました。ボランティアの皆さんからは、楽しかった感動したなどの感想を頂きました。また、受付や湯茶の接待・案内などを担当してくれた６年生のさわやかな挨拶と笑顔がとても素敵だったとお褒めの言葉も頂きました。企画委員会と６年生の皆さん、準備や運営ありがとうございました。

さて、現在、学校では、保護者の方をはじめ、多くの地域の方にご支援を頂いて学習活動を展開しています。教師だけでは充分にサポートできない学習や登下校の安全確保、読書活動への意欲付けなど、様々な場面でご支援を頂くことにより、より充実した活動を行うことができています。本当に有難い事であると共に、なくてはならない活動となっています。また、ご支援頂いたボランティアさんからも子ども達から元気をもらったと思っていただくこともあり、少しは、子供たちと一緒に活動することが、何らかのお役に立てているのかなとも思っています。いずれにしても、子ども達を保護者や地域の皆様と一緒に育てていくことの大切さを改めて感じています。

今後、益々、いろいろな場面でご支援頂く事が出てくると思いますが、どうぞ、よろしくお願いします。そして、学校支援ボランティアの皆さんや地域の方との交流を行うことにより、人間関係が希薄であるといわれている現代社会で生活していく子ども達が、地域の方とのコミュニケーションを楽しみながら、逞しく育って行ってくれることを願って止みません。

人権週間「なかよし集会」に思う…　「親しき仲にも礼儀あり」

１２月２日（火）のいきいきタイムで「なかよし集会」を行いました。この集会は人権週間にちなんで実施されているもので、子ども達の人権意識を高めるために、子ども達の書いた標語を発表したり、映画を見たり、教師からの講話を行っています。

どの子ども達も真剣な態度で参加して、友達と仲良く過ごすために、どんな気持ちや態度が大切かを考えるよい機会となっています。

さて、「親しき仲にも礼儀あり」という言葉がありますが、お互いのことを尊重しあ

って生活できるようになると素晴らしいと思います。もちろんこのことは、大人にとっても重要なことです。相手が子どもだからではなく、立派な人格を持つ相手として丁寧に接することが大切であり、教師と子どもとの関係はもちろんのこと、家族の中でも同じことが言えると思います。お互いの気持ちを察しながら、思いやりの気持ちを持つことで、毎日穏やかに生活できるのではないかと考えています。でも、友達との関係が良好な状態でも、思わぬ一言でいやな思いをしたり、させてしまったりすることはたくさんあります。そんな時、自分の気持ちを素直に伝えたり反省して謝ったりして、「雨降って地固まる」のように更に仲良くなることも大切なことです。こんなことを子ども達と一緒に考えながら子ども達の標語（学習だより「きらめき」参照）の気持ちを忘れずに、みんなで頑張っていきたいと思います。

栃木市Ｐ連と藤岡ブロック研修会…　「自己効力感」

１２月６日（土）に藤岡公民館で栃木市ＰＴＡ連合会藤岡ブロック研修会が開催されました。「栃木市ＰＴＡ連合会」というのは、栃木市、都賀町、太平町、藤岡町が合併して新栃木市が誕生したことを契機にして、旧市町のＰＴＡの組織も合併して一つの組織となったものです。現在は、西方町や岩舟町も合併したのでかなり大きな組織です。そうなると、市全体で活動し会員相互の交流や研修を進めていくことは難しいので、旧市町での良さや取り組みを生かして、栃木市全体での研修と各ブロック（旧市町の枠組み）に分かれての活動を行っています。栃木市ＰＴＡ連合会は過日配付いたしました「いじめ防止」のパンフレットの作成や配付、栃木市全体の講演会を実施しています。

さて、今回実施された藤岡ブロックでの研修会では、藤岡地区の各学校の本部役員さんなどを対象に国学院大学栃木短期大学准教授の佐藤秋子先生をお招きして、「家庭における親と子のかかわり～自己効力感を育てるほめ方・叱りかた～」というテーマで講話がありました。

講話の中で「自己効力感」を育てることが大切だというお話がありました。「自己効力感」というのは、人が何らかの課題に直面した際、こうすればうまくいくはずだという期待に対して、自分はそれが実行できる「やればできる」という自信のことをいうそうです。この気持ちが高まれば、自分から進んで物事にチャレンジしていくようになるということでした。

自己効力感を高める方法として、「ほめる」ことが大切で、結果をほめるのではなく、子どものよい面を探して認めてあげるということがポイントだそうです。例えば、テストでよい点数が取れなくても、できたところを認めてほめてあげ、次にどうすればもっとよくできるようになるか、子どもに考えさせるとよいということでした。また、叱り方についても、「だめなんだから」とか「嫌いだよ」という子どもの人格を否定して威圧するような言い方ではなく、「あなたの事を大切に思っているよ」といった愛情のこもった言い方にすることによって、子どもの自尊心（自分のことを大切に思う心）が育っていくということでした。

日常の何気ない出来事の中の何気ない一言で、子どもの事を励ましやる気を持たせ、小さな成功体験（やったらできた）を積み重ねることが大切なのだなと改めて思いました。自分が子どもだった頃をもう一度思い起こして、大人と子どもの関係を考えるよい機会となりました。